令和元年度第１回小牧市立図書館協議会会議録

日　　時　令和元年７月２３日（火）
午前１０時００分～午前１１時３０分

場　　所　小牧市役所本庁舎３階３０１会議室

出席委員　１２名

唐松　健夫	舟橋　尚女
坂廼辺　範子	有馬　淳一
林　義人	中島　美幸
茶谷　嘉鶴	中村　克敏
酒向　道夫	河辺　文雄
松永　円	奥村　理恵

欠席委員　関戸　祥子

事務局

中川　宣芳	教育長
伊藤　武志	教育部長
松永　祥司	教育部次長
山田　久	図書館長
西島　春恵	図書館図書係長
今崎　健人	図書館主事

傍聴者　なし

（内容）

１　開会

【今崎主事】

それでは定刻となりましたので、ただいまより、令和元年度第１回小牧市立図書館協議会を開催させていただきます。

本日、関戸委員が欠席されております。傍聴者はありません。

会の開催にあたり、中川教育長よりご挨拶申し上げます。

【中川教育長】

こんにちは、教育長の中川と申します。令和元年度第１回図書館協議会にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変ご多忙の中、また、梅雨明けがもう明日にでも訪れるような暑い中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。また、日頃の図書館事業へのご理解、ご尽力につきましても重ねて御礼申し上げます。

さて、新小牧市立図書館の建設につきましては、いよいよ７月１６日から工事に着手いたしました。これまで紆余曲折ございましたが、すばらしい図書館ができることを願うばかりでございます。

新図書館につきましては、建設とともに運営面が非常に重要であると考えておりますので、これから運営計画などにつきましてもしっかり検討していきたいと考えています。

本日の議題でございますが、「平成３０年度事業報告及び令和元年度事業計画について」、「読書ノートについて」、「郷土資料のデジタル化について」の３点でございます。

なかでも「郷土資料のデジタル化」につきましては、新図書館開館に向けての新たな取組みであり、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴したいと考えております。

簡単ですが開会にあたりまして、ご挨拶とさせていただきます。

【今崎主事】

それでは、ここからの会議の進行につきましては、会長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

２　議事

【唐松会長】

続きまして、次第の２　議事に入ります。
議事の（１）について、事務局より説明をいただきます。

【西島係長】
それでは、議事２（１）平成３０年度事業報告及び令和元年度事業計画についてご説明申し上げます。
まず、平成３０年度事業報告につきましては、資料１―①「令和元年度図書館年報」により、ご説明申し上げます。こちらの年報につきましては、図書館の状況について分かりやすく発信し、ご理解いただくために、図書館のこれまでのあゆみや業務概要、基礎的な統計データなどの各種情報を１冊にまとめる形で、２８年度実績より作成しているものであります。
７ページをご覧ください。「小牧市立図書館のあゆみ」でございますが、平成３０年２月に飲料用自動販売機を図書館１階の入口を出てすぐの場所と、３階郷土資料室横のコーナーに、計２台設置いたしました。
次に、特別整理期間についてですが、９月２１日から同月３０日までありましたが、平成３０年度より、市民サービスの向上のため、９月の３連休に休館日が重ならないよう、９月の第１水曜日から１０日間に変更いたしました。
次に、１３ページをご覧ください。図書館費の平成３０年度決算見込額と令和元年度当初予算額です。決算につきましては、まだ議決前ではございますが、見込みということで記載させていただいております。
図書館費の内訳ですが、２の図書館運営一般事業は窓口業務の委託経費等、３の図書等購入事業は新刊図書等の購入費、４の読書啓発事業は各種行事やボランティア関係、ブックスタート関連費などです。図書館費の平成３０年度決算見込額は、３億４，２００万円余で、令和元年度当初予算額は３億５，４００万円余であります。令和元年度当初予算の、４，２２０万円の図書館建設事業費は、新図書館用図書と図書用ＩＣタグの購入費であります。
続きまして、１９ページからの図書館行事でございますが、３０年度も様々な事業を実施いたしました。イベントの参加人数については、昨年度ご意見のありました募集人数も併せて記載させていただいております。２４ページの（２）図書の展示　ア　夢・チャレンジ始まりの地　小牧コーナーの７月１日～８月３１日、メナード美術館コラボレーション企画「え！？こりゃ、装丁外。」や、１月４日から２月２８日、いただきます！小牧のエビ芋につきましては、市内関係団体と連携・協力して実施した企画であり、中日新聞でも取り上げていただく等、市民や来館者より大きな反響をいただきました。今年度以降も、引続き実施していきます。また、２５ページ　イ　カウンター前コーナーの展示期間　５月１１日から６月１４日の【図書旅あいち】ゆかりの作家三人展－小牧

編、についても中日新聞で取り上げていただきました。
　次に、２６ページ　エ　東部市民センター図書室常設コーナーについてですが、令和元年度で開室３０年を迎える東部市民センター図書室を、より便利にご利用いただけるよう、蔵書・配架の一部見直しと整理を行いました。
　書架の見直しや整理は、引続き実施していくと共に、今後、味岡、北里各図書室でも実施してまいります。
　次に、３１ページから３８ページにかけましては、「７．蔵書統計」として、３０年度時点の蔵書点数等を記載しております。３７、３８ページをご覧ください。「（２）資料別受入・除籍点数」ですが、最下段の合計といたしまして、平成３０年度は、１９，７９５点を購入するなど２０，５６４点を受入れいたしました。一方、亡失、汚破損、不用により２１，４９７点を除籍しました。結果としまして、本市の平成３０年度末時点の蔵書数は、５５２，１６９点となりました。蔵書については、本館のみならず図書室の蔵書更新にも留意し、常に書架の新陳代謝を図っていきたいと考えております。
　次に、３９ページから５１ページにかけまして、「８．貸出統計」として、３０年度の貸出点数等を記載しております。
　次に、５２ページから５４ページにかけまして、「９．利用統計」として、３０年度の登録者数や利用者数等を記載しております。
　次に、５５ページから５７ページにかけまして、「１０.蔵書数・貸出冊数・貸出利用者数の推移」として、過去５年間の推移を記載しております。５６ページの（２）貸出点数については、９７４，８３２冊であり昨年度より９，４８７冊の減冊となりました。
　５７ページの（３）貸出利用者数については、１９７，８４４人であり昨年度より１１，０９３人の増加となりました。配本事業については、保育園・幼稚園へ、定期的に絵本セットをお届けすることとしたことにより、配本団体貸出点数、配本団体延べ利用者数は増加いたしました。今後も、蔵書の更新や、積極的なPRが大切であると考えます。
　続きまして、令和元年度事業計画について、資料１－②を基に、今年度の取り組む内容について、特記事項を中心に、ご説明申し上げます。
　まず１ページ、一般事務事業の「５．地域ブランド戦略事業」についてです。特設コーナー「夢・チャレンジ始まりの地小牧」を設置し、年６回程度テーマを決めて小牧の地域ブランド向上に役立つ資料や情報を展示するものですが、今年度は、市内市民団体「アレルギーっ子のつどいクリスマスローズ」「ひよこの会」「ちごの森活動グループ」「岩崎山の歴史と文化交流会」の４団体が企画・展示を行います。現在展示中の、アレルギーっ子のつどいクリスマスローズ「来て、見て、読んで」は中日新聞にも掲載していただけました。

市民団体等との連携は、新図書館開館後も見据え、今後も積極的に行ってまいります。

また、２ページ「８．図書データ登録処理委託」についてです。新図書館での「信長コーナー」設置にむけて、今年度、小牧山課所蔵資料約２，８００点を信長文庫として受入れるため、図書データの作成と登録作業を委託するものです。

図書購入事業の「１．図書等購入」につきましては、引続き新刊図書等を幅広く収集することとし、約４，６９８万円の図書購入費を予算化しています。

続きまして、読書啓発事業の「２．子どもの読書活動推進講座、子どもの本講座の開催」につきましては、今年度は新たに読み聞かせボランティアさんを募集したく、ボランティア養成講座（初歩の初歩）を開催予定です。また、ボランティアステップアップ講座は「人形劇」を実施予定です。

３ページ、「３．小中学生にすすめるブックリストの活用」は、この後、議事（２）でご説明させていただきます。

４ページ、「９．広報に関する事業」では、親子だけでなく、お孫さんとのおはなし会への参加を期待し、「寿学園」で、おはなし会のＰＲちらしを配布することを予定しています。

今年度、図書館は開館５０周年となりますが、「１０．開館５０周年記念企画」として、図書室連携講座を９月、１０月に実施します。普段、各市民センター図書室をご利用の皆様にも参加していただきやすいよう、会場を東部・味岡・北里市民センターとし、各地域の歴史について学びます。我が家のある町の歴史を、本や文献を読むだけでなく、実際に見たり聞いたり、手に触れたりと、五感で感じてみる新しい試みの講座です。４回目は、各講座で取り上げた遺跡を中心に史跡めぐりも行う予定です。また、受講者が実際住んでいる地区について親しみやつながりを一層感じていただくと共に、地域コミュニティーにおける知の情報発信元としての図書館の役割を再認識していただくことも狙いとしています。また、ＹＡライブラ大賞も実施予定です。

最後に６ページ、図書館施設建設事業についてであります。新図書館開館に向けて、令和元年度、２年度の２ヵ年で合計約２９，０００冊の図書と約１，１００点の視聴覚資料を購入予定でありますが、そのうち、今年度は約１５，５００冊の図書と、ＩＣタグの購入費として４，２２０万円を予算化しております。

以上が「平成３０年度事業報告及び令和元年度度事業計画」についての説明でございます。よろしくお願いいたします。

【唐松会長】

ありがとうございました。
ただいまの事務局からの説明に対して、ご意見・ご質問等ありましたらご発言をお願いします。

【奥村委員】

昨年も申し上げましたが、一般利用者向けの講座やイベントが少ないのではないかと感じます。新図書館の基本方針においても「人が集い、行きかい、・・・」というようなこと書かれておりますので、それに向けて一般利用者向けのイベントも企画していただきたいと思います。

また、展示企画についてですが、一般の市民団体と協力して展示コーナーの設置に取り組んでいる様子を新聞でも拝見し、とてもよい取り組みであると思いました。展示だけではなく、展示期間中に市民団体の方にミニ講演会、交流会のようなものをやっていただければ、より充実した内容になると思います。

最後に、子ども向けの将棋の講座についてです。昨年、今年と企画されておりますが、対象者が小学生とその保護者となっていたのが残念でした。中・高生や高齢者、若い女性であっても、将棋を習ってみたいと思う方はいらっしゃると思います。子育て支援の一環として企画されてイベントであるのかも知れませんが、広く様々な世代の方に参加いただけるイベントにしてはどうかと思います。

【西島係長】

まず１点目のご質問についてですが、今年は開館５０周年記念といたしまして、４回の講座を定員各３０名で実施します。これにつきましてはどちらかと言いますと大人の方向けの講座でありますので、こちらをもって一般向け講座の充実に向けた取り組みであると考えております。

２点目のご質問についてですが、まずは各団体との関係作りを目的に展示を実施してまいりました。今後は新図書館開館に向けてさらに連携を深め、委員のおっしゃられたミニ講演会なども検討します。

最後に将棋講座へのご意見についてですが、今回は夏休みということもあり、小学生とその保護者を対象としましたが、委員のご意見もごもっともであると思いますので、今後対象を広げることも検討します。

【中島委員】

一般向け講座の取組みにおける参考例としまして、以前も話題にあげましたニューヨーク公共図書館の映画をご紹介します。本館のほかに９０程の分館がある大規模な図書館なのですが、施設運営の費用は半分が公費、もう半分を民間からの寄付等で賄っているそうです。ニューヨーク公共図書館ではありとあ

らゆる催しを企画しており、例えば高齢者がダンスをしたり、子どもがプログラミングを学んだり、様々な職業のインフォメーションがあったりと、まさに知と情報の集積の場であるという印象を受けました。もちろん予算の制約等あるとは思いますが、ニューヨーク公共図書館から学べることはあると思います。特に一般向けの講座の企画においては参考になるのではないでしょうか。

また、ニューヨーク公共図書館では、いわゆる“情報弱者”と呼ばれる人々のためにモデムの貸出も行っているそうです。

映画全体を通して、ニューヨーク公共図書館では人生１００年時代を豊かに生きていくためのサービスが徹底されているなと感じました。小牧の新図書館においても、幅広い世代の方の交流の場となり、様々なイベントの企画に取り組んでいただきたいと思います。

【茶谷委員】

資料１－②の２について質問です。名古屋造形大学・愛知文教大学との相互利用サービスとありますが、これは単に相互利用について確認し合うというものなのか、前進させるというものなのかどちらでしょうか。もし前進させるというのであれば、新図書館において大学生の運営するブースのようなものを設けてはどうかと思います。

【伊藤教育部長】

ただいま３名の委員の方からご意見をいただきました。ありがとうございます。主に一般向けのイベント等をもっと企画してはどうかというご意見であると受け止めております。私は先日、岐阜市の図書館に行ってきたのですが、たくさんの部屋がありまして、掲示板には様々な企画がびっしりと紹介されており、またそれに多くの方が参加していることに大変驚きました。現在の図書館ではなかなか難しいですが、新図書館が開館した時には他の図書館に負けないようたくさんのイベントを企画してまいりたいと思っております。皆様にもご意見をいただきながら進めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【中村委員】

登録者数について伺います。私は小学生の図書館利用が非常に重要であると考えているのですが、小学生の利用者登録と関連するような事業はありますでしょうか。

【山田館長】

学校のプログラムにおいて、小学校２・３年生のときに学校単位で図書館を訪問するというものがあるのですが、その際に図書館利用券を持っていない児童にはあらかじめ作っておき、訪問の際にお渡しするという取り組みは行っております。ただし、全校で実施しているわけではありません。

【唐松会長】

図書館の登録者が市の人口の１割強程度しかいないというのは、決して小牧だけの問題ではありませんがあまりにも少ないと思います。春日井の人で小牧の図書館を利用している人は多いようですが、小牧の人で春日井の図書館をどれくらい利用しているかという統計も出せるのであれば出していただきたいです。

また、リクエストや予約などの統計を見ますと、東部がかなり多くなっています。人口が集中していることもあるとは思いますが、新図書館開館に合わせて分館をどうしていくかという方向性も定めなければならないように感じます。

また、開館５０周年イベントの文化財めぐりについては、類似のイベントを実施している生涯学習課文化財係との調整は図ったほうがよいと思います。

【中島委員】

資料１－①の p.２５のイ　カウンター前コーナーについて伺います。７月７日から８月７日まで女子バスケの応援企画を実施されておりますが、これはどのような趣旨で実施したのでしょうか。

【山田館長】

パークアリーナが女子バスケのインターハイの会場となったことを受けてこのようなコーナーを企画いたしました。

【中島委員】

良い取り組みであると思います。スポーツ全般に言えることですが、どうしても男性にスポットが当てられやすい中で、女性を意識的に取り上げていただくことは重要であると思います。来年には東京オリンピックの開催を控え、男女平等や性的マイノリティの平等などが言われている中で、非常にタイムリーなテーマであると思います。現在活躍が注目されている女性アスリートも増えていますので、スポーツにおいて女性にスポットを当てたこの企画は大変良い取り組みであると思いますし、今後も女性をテーマにした企画に取り組んでいただきたいと思います。

【中川教育長】
貴重なご意見ありがとうございます。実は昨年度、この東海ブロックがインターハイの担当ブロックになりまして、その流れの中でパークアリーナが女子のバスケットボールの主会場となりました。幸いにして愛知県と岐阜県の学校が決勝で対戦し、非常に盛り上がった大会でした。図書館とスポーツ関係、先ほど会長のおっしゃった文化財の関係などがうまくリンクしていくことが非常に大切なことだと思います。新図書館の開館に向けた運営計画の中ではこのようなことも考えてまいりたいと思います。

【山田館長】
先ほどの唐松会長からのご質問に対してお答えします。小牧市民が春日井の図書館をどのくらい利用しているかということですが、お調べして後日ご回答いたします。
また、分館のことにつきましては重要な課題であると認識しておりますので、引き続き検討してまいります。
それから５０周年記念イベントのことにつきましても、教育委員会の中でしっかりと情報共有をして進めてまいります。

【舟橋委員】
本日の中日新聞の記事で、病院と図書館が協力して癌に関するコーナーを作ったというものがありました。とても良い取り組みだと思いましたので、小牧市でも実施してはどうかと思いました。
それからカウンター前のコーナーはいつも素敵だなと思いながら拝見しております。

【山田館長】
市民病院との連携につきましては、他館で実施している例がございますので、参考にして検討してまいりたいと思います。
また、カウンター前コーナーにつきましては、色々な切口から企画をし、利用者が増えるよう努めておりますので、これからもしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

【中島委員】
記憶が曖昧ですが、病院の図書室のボランティアの全国組織が昨年解散したと聞いたことがあります。全国的な組織は弱体化しているかもしれませんが、小牧の病院にもボランティア組織があると思いますので、連携して病気に対す

る知識を深めるコーナーなどを設けてはどうかと思います。

【河辺委員】
資料１－①の p. ２９についてですが、職場体験に来る中学生の参加人数が少ないように思いますので、増やす努力をしていただきたいと思います。
次に p. ３０ですが、小学校２年生と３年生が多いですが、読書離れが進みやすい高学年の児童の参加を促してはどうかと思います。
それから「広報こまき」についてですが、市民病院の方が毎回「市民病院だより」というコラムを書いておられます。今回の広報でも、１ページを使って健康について色々と書かれています。図書館においても、館長や司書が新図書館での取組み、意気込みなどを書かれてはどうかと思います。

【山田館長】
まず小２・小３見学についてですが、学校との調整が必要となりますので、なかなか難しいかと思います。職場体験につきましても、３日間つきっきりで対応しますので、あまり大人数には向かないと考えております。小学生の図書館利用の促進に関しましては何か別の方法を考える必要があると思いますが、このあとの議題にございます「読書ノート」もその一つであると考えております。
広報での情報発信につきましては、ご意見はよく理解できますので、何らかの形で実施できればと思います。

【舟橋委員】
小２・小３見学は、１年生はやや難しいのでまずは２・３年生で図書館を見学し、カードを作ってみるという趣旨で実施しております。新図書館においては高学年の児童においては新図書館に行ったことがないということも出てくると思いますので、学校と調整して、開館１年目から２年目くらいにかけては高学年の見学も実施するとよいかもしれません。２・３年生については定着しておりますので、このまま続けていただけたらよいと思います。

【唐松会長】
意見も出尽くしたようですので、議事の（２）について、事務局より説明をいただきます。

【西島係長】
それでは議事の（２）読書ノートについてご説明させていただきます。資料

２をご覧ください。
　はじめに、１　小学生向け読書ノートについてでございますが、まずは読書ノートについて簡単にご説明いたします。読書ノートとは、小牧市教育振興基本計画の施策８「小中学生にすすめるブックリストの活用」に基づき、子どもの読書習慣の形成を目的に図書館で作成した読書記録ノートのことでございます。
　これまで図書館では、図書館協議会の委員の皆様や、学校関係者のご意見なども踏まえながら、読書ノートの作成に取り組んでまいりました。
　昨年度には、光ヶ丘小学校の１・２年生の児童及び保護者のご協力を得て、試験的に読書ノートを配布し、アンケートを実施しました。
　今年度につきましては、市内小学校１６校に通う全児童に対し、読書ノートを配布する予定で現在事務を進めているところでございます。
　今年度の具体的なスケジュールは（１）の表にあるとおりでございます。今年の５月に印刷業者が決定し、現在は校正を進めております。納品は８月になる予定で、新学期の始まる９月には市内小学校１６校へ配布が完了する予定です。
　読書ノートの活用期間としては２月までを想定しており、２月中旬～下旬にかけて児童に対してアンケート調査を行うとともに、１０冊以上読了した児童の読書ノートを回収、集計し、読書マスター認定証を修了式までに配布します。
　続いて裏面２ページにまいりまして、（２）アンケートについてでございますが、市内全小学校のうち４校を抽出し、実施する予定でございます。
　次に、（３）今後については、アンケートのほかにも学校図書館での貸出統計や、図書館における児童の貸出及び利用者統計を算出するなどして事業効果を分析してまいりたいと考えております。
　また、読書ノートは２年間使用する想定で作成しているため、令和２年度以降、毎年新１年生、新３年生、新５年生の全児童へ読書ノートを配布いたします。
　新図書館開館後は、読書ノートのさらなる活用を目指し、新図書館児童コーナーやティーンズコーナーに読書ノートを設置することも検討しています。
　続きまして、２　中学生向け読書ノートについてご説明いたします。中学生向けの読書ノートにつきましては今年度試作品を作成し、光ヶ丘中学校にて試験的に配布する予定です。
　具体的なスケジュールは（１）の表のとおりでございます。試作品の作成につきましては８月上旬を予定しており、９月に校長会、教頭会、研究部会にて説明をするとともに、光ヶ丘中学校へ試作品を配布します。２月には生徒を対象にしたアンケート調査を実施する予定です。

（２）今後についてでございますが、アンケート結果や先生方のご意見を参考とさせていただき、令和２年度に市内全中学校の生徒に対し、中学生版読書ノートの配布を目指します。

以上で、議事の（２）読書ノートの説明とさせていただきます。

【唐松会長】

ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明に対して、ご意見・ご質問等ありましたらご発言をお願いしたいと思いますが、まず私から１点質問させてください。小牧市における司書教諭と学校司書の配置状況を教えてください。

【山田館長】

司書教諭は各学校でそれぞれ配置されております。また、図書担当の教諭もみえますが、司書教諭と兼任されている場合もあります。

【中川教育長】

ただいまの説明に補足させていただきます。学校図書館法という法律の中で、１２学級以上ある学校については司書教諭を置かなければならないという規程がございますので、小牧市内の１２学級以上の学校については全て司書教諭を配置しております。また１２学級未満であっても、司書教諭の資格を持っている教員が在籍している場合は司書教諭として任命しておりますので、市内２５校においてはほぼ司書教諭が在籍していると思います。ただ、専任ではなく担任などをやりながら司書教諭も兼任している状況ですので、今後どのように司書教諭として活躍していただくかは課題であると感じています。

【坂廼辺委員】

私は味岡中学校で図書ボラの活動をしているのですが、小牧市は大変恵まれておりまして、生徒の数に比例して毎年たくさんの新刊図書が入ります。私たち図書ボラはその新刊図書にブックカバーをかけたり、環境整備などのお手伝いをさせていただいております。

読書ノートに関しましては、分かりやすく、大変よいものだと思いました。小学校の場合は長い放課がありますので、そこで図書室を利用する児童も多いと思いますが、中学生は図書室を利用できる時間が大変少ないことが問題であると感じています。図書室の環境は非常に良く、週に１回図書館から学校司書の方も派遣されます。その司書の方が来る時は１日中図書室も開放されていますので、その日は比較的生徒も図書室を利用するようですが、テスト期間中な

どでも図書室が閉まっている場合が多く、残念だと思います。最近は先生方の負担になるべくならないようにということも言われておりますが、学校側の図書室に対する意識改革も必要であると思います。例えば夏休みに図書室を活用することも一つであると思います。新図書館が開館すればもちろんそちらを利用する人は増えるとは思いますが、せっかく図書室という恵まれた環境がございますので、そちらの利用促進にも取り組んでもらいたいと思います。

【中川教育長】

委員ご指摘のとおり、中学校の図書室の活用状況については課題であると認識しております。

先日、島根県の松江の方に行ってまいりまして、学校図書館推進事業の様子と、市立図書館の視察をしてまいりました。その際、視察先の方から小学校の学校図書館の活用状況は素晴らしいとお聞きしましたが、中学校についてはどうなのかと問いかけたところ、やはり中学校については課題であると言ってみえました。

学校図書館と言いますと、読書センター機能だけではなく、学習センター機能もございます。例えばそこで授業を行うことによって、グループで図書室の資料を使って調べものをするというような活用方法もあっていいのではないかと考えております。学校図書館と言うとどうしても読書センター機能のみで語られることがありますが、学習センター機能や情報センター機能についても意識しなおさなければいけないと、学校現場にも話をしていきたいと考えております。

【中島委員】

私も、自ら調べて学んでいくという学習センターとしての機能は大切だと思います。調べもの学習については紙媒体のものだけでなく、最先端のものを用いることも大切です。そう考えますと、ネット環境やタブレットの整備が必要であると思います。もちろん初期投資はかかると思いますが、子ども達が図書室を利用する動機付けになると思いますので、是非お願いしたいと思います。

【中川教育長】

環境整備につきましては、学校教育のＩＣＴ計画という３ヵ年の計画を立てておりまして、将来的には各学校に３クラスに１クラス分のタブレットを配置するとしております。今年度におきましては、小中学校で２校ずつモデル校を設定し、実際にタブレットを配置する予定です。委員ご指摘のとおり初期費用及び維持管理において費用がかかることではありますが、我々としましては学

校教育のＩＣＴ化計画に基づき、事業を進めてまいりたいと考えております。

【奥村委員】
　中学生に読書を勧めることは、読書離れもありますので、小学生とは違って難しいと思います。中学生用のブックリストにある本がどのような観点で選ばれたものかは分かりませんが、親や先生のための読書ノートではなく、中学生自身のための読書ノートであって欲しいと思います。
　また、出版社や学校からも色々と薦められる本がある中で、さらにリストを作ったとして受け入れられるかどうか疑問です。そう考えますと、紙ベースではなく、他のやり方があるのではないかと思うのですがいかがでしょうか。

【山田館長】
　中学生用の読書ノートにつきましては本日試作品を持ってきておりますが、議題にはあげておりませんので、後ほど配布させていただきます。
　やり方につきましては委員ご指摘のように紙以外のやり方があるのか、何か他に工夫すべきところがあるのかという点を今後検討してまいります。

【中島委員】
　先頃国から出された統計を見ますと、日本は自殺対策について法整備をし、力を入れて取り組んでいますが１０代の自殺だけは減っていないそうです。それが読書で解決する問題ではないのかもしれませんが、人知れず悩んでいる生徒に届くような本ですとか、読書ノートを通して司書さんとの出会いがあったりして、救われることがあるかもしれません。薦める本を選ぶ際にはそのような視点も持っていただきたいと思います。

【奥村委員】
　私もそれぞれの生き方の指針となるような本に出会っていただきたいという思いは強いのですが、それをどうやって見つけていただくか、このような思いをどうやって中学生に届けるかという意味合いで先ほどは申し上げました。

【唐松会長】
　いずれにしましても、読書ノートについては司書教諭や学校司書といった子どもと直接関わる方たちにどれだけ協力していただけるかが非常に重要であると思います。

【山田館長】

先ほど説明をしておりませんでしたが、学校には図書館から派遣している学校司書がおりますので、読書ノートについては学校司書に図書館と学校とのパイプ役になっていただきたいと考えております。

【唐松会長】
それでは、次の議題に移りたいと思います。議事の（３）について、事務局より説明をいただきます。

【山田館長】
それでは議事の（３）、「郷土資料のデジタル化」についてご説明させていただきます。本日は主に、デジタル化の対象とする資料についてご意見を頂戴したいと考えております。それでは資料３－①をご覧ください。
１．背景と目的でございますが、図書館では「象山文庫」をはじめ、貴重な郷土資料を多数所蔵しております。しかし、資料の劣化を防ぐために閉架書庫で保管しており、来館者の目に触れる機会がほとんどないのが現状です。そこで、新図書館の開館に合わせてこれらの資料をデジタル化し、電子データとして半永久的に保存するとともに、インターネット上で資料を公開することで小牧市の郷土資料の情報発信や、研究機関などの調査研究に役立てたいと考えております。
続いて２．対象資料でございますが、「象山文庫」の中でも特筆すべき特徴のある資料を約１００種選定いたしました。「象山文庫」と言いますのは、津田応助という人物が生涯を費やして筆写、収集したり、自ら編著した資料のことです。津田応助と象山文庫につきましては資料３－②で紹介しておりますのでそちらをご参照ください。
今回デジタル化の対象とした資料につきましては、ページ下部から２ページ目にかけての表にあるとおりでございます。
①は『小牧山合戦史蹟写真帖』と言いまして、津田応助が自ら史蹟を訪ねて作成した写真帖に細密の文字で行軍の場面を書き込んだものでございます。
②は『小牧宿古図』と言いまして、昔の小牧宿の絵図の写しでございます。原本は徳川侯爵家のものと言われています。
③は「相渡し申川田之事」ほか古文書１３種でございます。象山文庫で収集された古文書は多くはありませんが、そのほとんどは「小牧近世文書研究会」という有志の研究会によって翻刻されています。
④は『小牧公園留記』をはじめ和装本６０種です。『小牧公園留記』といいますのは、元愛知県庁の文書「小牧山公園留記」が徳川義親に寄付され、それを津田応助が借り受けて筆写した資料です。

最後に３．今後の方針でございますが、今回選定した約１００種の資料のほかにも、象山文庫には貴重な資料が多数ございます。なかでも、名古屋温故会という大正時代に発足した郷土史研究団体の絵葉書や、名古屋市中央放送局が昭和初期に放送していた郷土に関するラジオ講演の原稿は貴重です。また、生涯学習課から図書館へ移管した「信長文庫」の錦絵、市の広報フィルムやビデオテープなどをデジタル化することも有意義であると考えております。

新図書館開館後も、こういった資料を計画的にデジタル化し、貴重な資料の保存に努めるとともに、小牧の郷土に関する情報発信に努めてまいりたいと考えております。

本日は、資料の一部をお持ちしておりますので、会議終了後にぜひご覧いただきたいと思います。

以上で議事の（３）「郷土資料のデジタル化について」の説明とさせていただきます。

【唐松会長】

ありがとうございました。

ただいまの事務局からの説明に対して、ご意見・ご質問等ありましたらご発言をお願いします。

【酒向委員】

先ほどの事業計画の説明の中で、信長文庫の登録作業をされるとありました。信長文庫には信長に特化した資料の他に、郷土資料のようなものも含まれていると思います。また、図書館が所蔵している郷土資料として約２万点程の資料があり、歴史的な資料とその他の資料とが含まれていると思いますが、今回は象山文庫をデジタル化されるということで、せっかくデジタル化をするのにこれらがばらばらではいけないと思います。

また、資料の登録が本館でされている関係で、統計上本館に計上されている資料が実際には東部や味岡などに所蔵されているということもございます。

登録やデジタル化をばらばらに進めるのではなく、一体的に考えて利用者が分かりやすいように整備していただきたいと思います。

【山田館長】

ご意見ありがとうございます。昨年度も統計についてはご指摘いただいており、今回も修正ができておらず申し訳ございませんが、技術的な問題がございまして、修正が困難な状況です。

このようなことも含め、郷土資料全体を分かりやすく整備していくことは大

変重要であると思いますので、全体像を一度整理したいと思います。

【中島委員】
愛知県図書館のホームページを見た際、愛知県、名古屋市、安城市、豊橋市、岡崎市、大府市、岩瀬文庫においてデジタル化資料を公開しておりました。これらの中でダウンロードができるのは愛知県と豊橋市だけでした。海外では著作権が切れているものはダウンロードが出来るというのが普通です。日本全体がこの点においては遅れておりますが、アメリカでは図書館や美術館、博物館などが連携して資料の公開やダウンロードの自由化に取り組んでいます。
是非今回のデジタル化では、著作権の切れたものについてはダウンロード可能な形で公開していただきたいと思います。

【山田館長】
ご意見ありがとうございます。前向きに検討させていただきます。

【唐松会長】
新館に向けて小牧もやるぞというインパクトはあった方が良いと思います。また、アクセスされなければ意味がないので、あまり小牧の資料や象山文庫にこだわり過ぎないほうが良いと思います。それから、デジタル化については継続的に取り組んでいただきたいと思います。

【中島委員】
同じ画像でも見せ方によって全然違います。行政が作るものは総じて“ダサい”ことが多いので、海外の図書館のように魅力的な見せ方をすることが大切であると思います。
また、資料を見ていると長久手や犬山も出てくるようですので、近隣の図書館も巻き込むと面白いと思います。
それから絵葉書などはあまり歴史に興味がなくても楽しめると思いますので良いと思います。

【山田館長】
ご意見ありがとうございます。アクセスされないものになってはいけませんので、見せ方にもこだわって取り組んでまいりたいと思います。また、対象資料については委員ご指摘のように、写真や絵葉書なども親しみやすいと思いますので、対象範囲を広げていくことも検討してまいります。

【唐松会長】
今年は小牧長久手合戦４５０周年ですので、そういったことも意識していただきたいと思います。
それでは、議事がすべて終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

３　その他連絡事項

【今崎主事】
活発なご審議ありがとうございました。
続きまして、次第の３、その他連絡事項に入ります。

「資料配布」

【山田館長】
２点連絡がございます。
まず１点目ですが、前回の会議で図書館資料の収集方針についてご検討いただきましたが、収集方針と対になっている資料の除籍についても説明すべきとのご意見をいただいておりましたので、ここで簡単にご説明させていただきます。
図書館資料の除籍につきましては、ただいま配布しました「小牧市立図書館所蔵資料の除籍に関する要綱」に基づき、資料の数量・品質の維持及び書架の有効利用を目的に行っております。
要綱の概要としましては、第２条に除籍することができる資料を定め、以降の条文にて詳細に記載しております。詳しくは資料をお読みいただければと思います。
また、除籍した資料につきましては、別に「小牧市立図書館除籍資料の処分に関する要綱」によって、リサイクル等の処分方法を定めております。こちらの要綱につきましてもご参考として先ほど配布させていただきました。
処分方法の具体的な例としましては、リサイクルコーナー、売払い、保育園・児童クラブ等への無償譲渡がございます。
なお、これらの要綱は小牧市の例規として、インターネット上でも公開されております。除籍に関するご説明は以上です。
続いて２点目ですが、中学生用の読書ノートについてのご連絡です。先ほど中学生用の読書ノートの検討中のものを配布させていただきました。こちらにつきましては現在、学校関係者と調整しながら作成を進めており、次回の図書

館協議会の際に委員の皆様のご意見を伺おうと考えております。
　連絡は以上です。

【今崎主事】
　これをもちまして、令和元年度第１回小牧市立図書館協議会を閉会いたします。
　お帰りの際には、交通安全には十分にお気をつけいただきますようお願い致します。
　ありがとうございました。